

2022 年度
FD 関連研修会 活動報告書

佛教大学 教育推進部 教育推進課

2022 年度 FD 関連研修会 活動報告書発刊にあたって

教育推進機構長

齊藤 利彦

大学教育の質保証の観点から、学内外における FD 研修は大学教員にとって重要な教育活動のひとつといえます。教員ひとりひとりが教育の質を高め、それを実践する力を向上していくことが求められているからです。また、そのような活動を継続することは、大学教員にとって、学生に対する責務でありましょう。

大学の FD 研修の内容は多岐にわたります。一例をしめせば、授業デザインの方法、シラバスの作成、評価方法、教材開発、ICT を活用した授業運営、といったものです。これらは比較的ポピュラーな内容といえ、本学においても、具体性をもって FD 研修として取り上げています。このような内容に加え、カリキュラム研究や策定に関わる方法論などといった、カリキュラムに関する FD 研修も重要です。とりわけ近年、学修者本位の教育への質的転換が提唱されるなか、大学、あるいは学部学科が順次生・体系性をもったカリキュラムを構築し、効果的な学び、すなわち、履修順序を策定し展開することは、学生の成長実感をあげていくうえで喫緊の課題だからです。

履修順序を明確化するうえで、欠かせないのがカリキュラム・マップ/カリキュラム・ツリーです。カリキュラム・マップとは、「カリキュラム・ポリシー」を一覧できるように表したもので、このマップに記載されるカリキュラム上の諸情報を易化したものがカリキュラム・ツリーとなります。これらを通じ、学生、ないし社会は、学部・学科、あるいは専攻（領域）のカリキュラムや教育内容が、AP-CP-DP という、いわゆる 3 つのポリシーとどういった整合性のあるかたちで接続しているのか、これらのポリシーにもとづいて、どのようなカリキュラム編成がなされているのか、カリキュラムを構成する諸科目の系統は、どういったものなのかを理解します。その意味で、カリキュラム・マップ/カリキュラム・ツリーは学内外に対し、大学教育の体系をしめす重要な指標といえます。

本学は 2022 年度、全学的にカリキュラム・マップ/カリキュラム・ツリーを策定いたしました。そのため、それらに関連する FD 研修を、第 1 回佛教大学教育開発研究会「カリキュラムの可視化ワークショップ」を、第 2 回のそれは教育学部を軸に、「教職課程カリキュラムツリーの作成ワークショップ」として題し、それぞれ開催しました。

今回の報告書には、上記の研究会の資料とともに、その他の FD 関連研修会参加報告を収載しました。学部学科独自の FD 研修会もバラエティーに富んだ内容で注目できますが、これらはひとえに学修者本位の教育実現のため、学生が成長を実感できる教育のためのものといえます。

教育推進機構・教育推進部は、今後も FD 研修を積極的に推進していきます。本報告書が、先生方の授業運営や学生支援に貢献できましたら幸いです。

目次

2022 年度教員研修会

- ・ 2022 年度 FD 研修会実施一覧-----3
- ・ 第 1 回佛教大学教育開発研究会報告
「カリキュラムの可視化ワークショップ」 -----4
- ・ 第 2 回佛教大学教育開発研究会報告
「教職課程カリキュラムツリーワークショップ」 -----13

2022 年度その他活動

- ・ FD 関連研修会 参加報告書----- 27

2022 年度教員研修会・学部（学科）

FD 研修会

2022年度FD研修会実施一覧

全体FD研修

日程	時間	場所	対象	テーマ	参加者数
2022年7月12日(火)	16:10~18:00	対面・オンライン	専任教員	第1回佛教大学教育開発研究会 カリキュラムの可視化ワークショップ	22
2023年2月22日(水)	15:30~17:00	対面・オンライン	教育学部専任教員 教職支援センター 専任教員・職員	第2回佛教大学教育開発研究会 教職課程カリキュラムツリー作成ワークショップ	46

学部・学科研修

日程	時間	場所	対象	テーマ	参加者数
2022年9月8日(木)	—	オンライン	仏教学部	カリキュラムマップの作成について	11
2022年6月29日(水)	15:00~16:00	オンライン	文学部中国学科	中国学科における学内学会の運営と役割について	6
2022年12月14日(水)	—	オンライン	文学部	文学部3学科のカリキュラム・授業 —カリキュラム完成年度を迎えて	25
2022年12月14日(水)	—	オンライン	歴史学部	合理的配慮を必要とする学生への具体的サポートについて	18
2023年1月18日(水)	—	オンライン	歴史学部	基礎学力テスト学部別結果報告会	18
2022年9月8日(木)	—	オンライン	社会学部	春学期入門ゼミの「縁」支援学生のサポートに関する意見交換会	16
2023年3月9日(木)	17:00~18:30	対面	社会学部	学生の学びに必要なことについてワークショップ	11
2023年3月15日(水)	16:15~17:30	オンライン	社会学部	秋学期「専門学修のための日本語表現」での「縁」支援学生のサポートに関する意見交換会	15
2022年12月21日(水)	14:30~16:00	オンライン	社会福祉学部	社会福祉学部生の力を把握する ～基礎学力テスト結果報告をとおして～	19
2022年7月20日(水)	17:00~18:30	オンライン	保健医療技術学部	シミュレーション教育の基本とVR/ARシミュレーターを用いた実践評価	30

◆第1回佛教大学教育開発研究会 カリキュラムの可視化ワークショップ

実施方法：対面・オンライン同時開催

日時：2022年7月12日（火）16：10～18：00

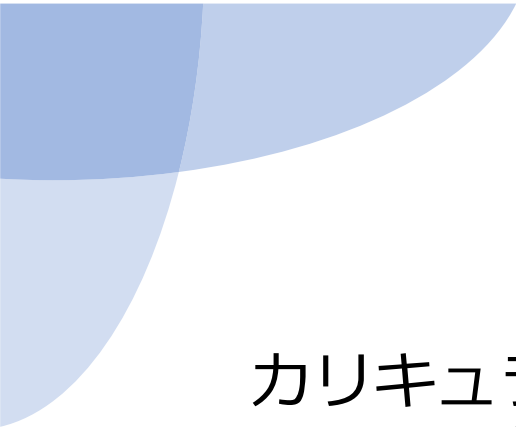
講師：貝 英幸（歴史学部歴史学科 教授）

【内 容】

カリキュラムマップ（以下：マップ）とカリキュラムツリー（以下：ツリー）の意義と必要性について確認した。マップとツリーについて必要とされているものの、文部科学省からの具体的な定義はないため、他大学の事例を見ながら概念を把握した。これらを踏まえた上で、マップとツリーの作成のねらいは、①カリキュラムや教育内容がAP-CP-DPの3つのポリシーと整合性のある形で接続され、それらポリシーに基づいた編成ができていることを確認すること、②カリキュラム編成の意図や編成上の工夫をふまえて、カリキュラムの全貌、カリキュラムを構成する諸科目の系統を学生や社会にわかりやすく伝えることであると述べ、マップとツリーの作成手順を説明された。特にツリーについては学生が大学や領域によってデザインが全く異なっており、学部や学科の学びをどのように表現すれば学生が一番わかりやすいかを念頭に作成することが重要であると強調され、所属している歴史学部のツリーを示しながら、どのような手順で作成したか、作成上の注意点などを説明された。

上記説明の後、学科ごとにマップとツリーの作成ワークを行った。





カリキュラム・マップ/カリキュラム・ツリーの作成にあたって

歴史学部 歴史学科

貝 英幸




本日のねらい

カリキュラム・マップ/カリキュラム・ツリーの意義と必要性について
理解する

カリキュラム・マップ/カリキュラム・ツリー作成の概要を把握する

カリキュラム・マップ/カリキュラム・ツリー作成の手順と検討事項を
理解する



カリキュラム・マップ/カリキュラム・ツリーとは

カリキュラム・マップ

- ・授業科目と教育目標の関係を示した表のことです。ディプロマ・ポリシー（学位授与の方針）に基づき、各科目が、卒業までに身につけるべき能力のどの項目と関連するのを示すものや、学習成果の達成にどの授業科目が寄与するかを示すもの（法政大学）
- ・体系的な教育課程を明確化するため、ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与方針）を踏まえた学修成果の達成に向けて、どの授業科目が寄与するかを示したもの（星槎大学）

カリキュラム・ツリー

- ・学習内容の順次性と授業科目間の関連性を同時に図示化したもの（フロチャート）であり、カリキュラムの年次進行、授業科目間のつながり、授業科目と教育目標の達成との関係などカリキュラムの体系的が一望できるようになっています。（横浜国立大学）
- ・入学時点から4年間の学修をシミュレートする羅針盤的なものを準備しました。これが「カリキュラム・ツリー」です。「ツリー」を呼ばれているのは、樹木のように根の部分から幹・枝の部分へと授業科目がつながっている様子を分かるように示しているからです。（和歌山大学）

カリキュラム・マップ/カリキュラム・ツリーの意義と必要性

昨年度実施された「科目ナンバリング」同様、「学生の学習を活性化し、効果的に教育を行うための措置」の一環であり、マップ・ツリーの作成作業を通じて、学部（学科）カリキュラムの確認・点検のための作業でもある。この取り組みは、レジュメ末尾の（参考資料1、2）をうけたもの

マップ・ツリー作成の主なねらい

- (1) 学部・学科・専攻（領域）のカリキュラムや教育内容が、AP～CP～DPという3つのポリシーと整合性のある形で接続され、それらポリシーに基づいたカリキュラムが編成できていることを確認すること
- (2) カリキュラム編成の意図や編成上の工夫をふまえて、カリキュラムの全貌、カリキュラムを構成する諸科目の系統を学生（社会）にわかりやすく伝えること

カリキュラム・マップ/カリキュラム・ツリーの意義と必要性

カリキュラム・マップ/カリキュラム・ツリーの例

カリキュラム・マップ

経済学科カリキュラムマップ (カリキュラムツリー、シラバス専門教育科目一覧表との整合版)

授業科目	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6	DP7	DP8	DP9	科目の系列	配当年次
基礎教育科目											
入門ゼミ					○				○	必修	1
外国語科目・英語											
Reading and Interaction		○		○						必修	1
Listening and Presentation		○								必修	1
Writing and Interaction		○		○						必修	2
Academic Presentation		○		○						選択	2
Academic Reading		○		○						選択	2
Academic Writing		○		○						選択	2
Academic Listening		○		○						選択	2
Modern Novel		○		○						選択	2
TOEFL and IELTS		○		○						選択	2
TOEIC		○		○						選択	2
Media English		○		○						選択	2
外国語科目・第2外国語 (ドイツ語、フランス語、中国語、スペイン語、日本語 (外国人留学生))											
第2外国語 (a)		○		○						必修	1
第2外国語 (b)		○		○						必修	1
第2外国語 (c)		○		○						必修	2
保健体育科目											
スポーツ総合									○	必修	1

法政大学 経済学部経済学科カリキュラム・マップ

カリキュラムマップ (カリキュラムとディプロマポリシーとの対応関係一覧表)

大妻女子大学 令和4年度

各DPと専攻の知識目標との関係
○: 特に関連する □: 関係する

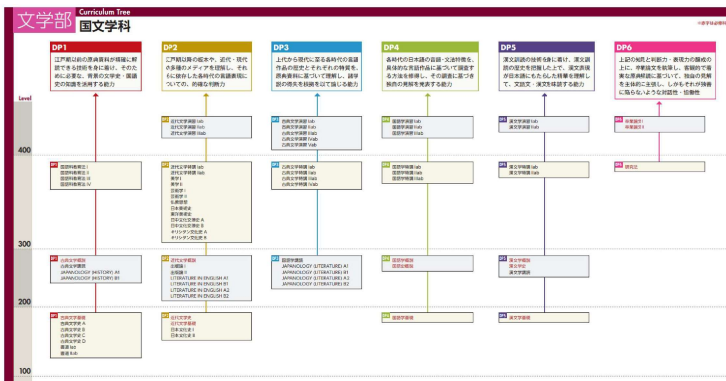
科目コード	科目名	単位	配当年次	経済学、経営学、社会学、メディア学を中心とした専門分野の機能的な学びによる学際的思考力。	社会や情報に関する知識や技能を適用して問題を発見し、解決に導く課題解決力。	複雑化した現代社会の中で自己の発想を的確に表現できる構造的思考力と、多様な価値観をもつ人々と協働し、実社会コミュニケーション力。
13110700	経営学入門	2	1		○	
13110900	基礎経営学	2	1		○	○
13110400	社会生活情報基礎演習Ⅰ	2	1		○	○
13110402	社会生活情報基礎演習Ⅱ	2	1		○	○
13110901	プログラミング基礎	2	2		○	○
13110902	プログラミング基礎演習	2	2		○	○
13110903	社会情報学ゼミナールⅠ	2	3		○	○
13110904	社会情報学ゼミナールⅡ	2	3		○	○
13110905	社会情報学ゼミナールⅢ	2	4		○	○
13110906	社会情報学ゼミナールⅣ	2	4		○	○
13110905	卒業研究	6	4		○	○
13110902	発達心理学	2	12		○	○
13110903	感情とパーソナリティの心理学	2	12		○	○
13110703	病と健康の心理学	2	12		○	○
13110704	認知の心理学	2	12		○	○
13110801	社会心理学	2	12		○	○
13110804	心理統計演習	2	14		○	○
13110802	経済学基礎	2	12		○	○
13110804	マクロ経済と金融	2	12	○		
13110805	消費・経済情報分析	2	2	○		
13110806	グローバル経済	2	23	○		
13110809	海外経済実務	2	23	○		
13110802	海外企業行動学	2	23	○		
13110802	産業組織論の経済学	2	23	○		○
13110803	情報の経済学	2	23	○		○
13110804	日本経済論	2	23	○		○
13110707	経営学	2	23	○		○
13110809	ITビジネス論	2	14	○		○
13110807	国際金融論	2	14	○		○
13110804	ネットワーキング経済論	2	14	○		○
13110901	会社学入門	2	12	○		○
13110904	マーケティング入門	2	12	○		○

大妻女子大学 社会情報学科カリキュラム・マップ

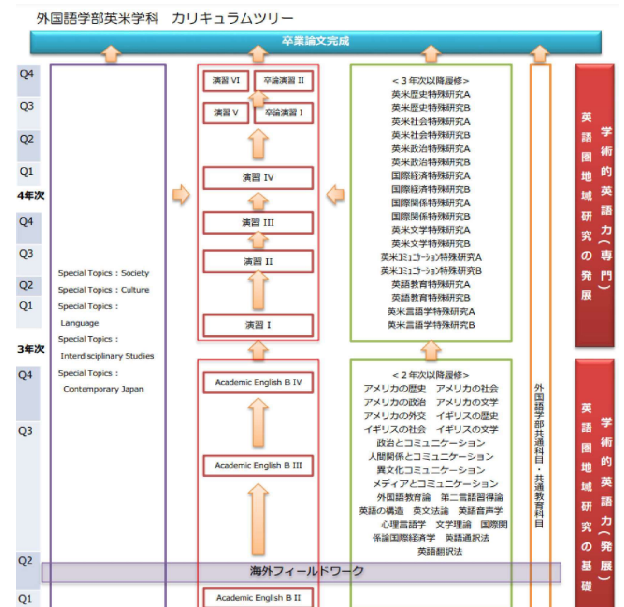
カリキュラム・マップ/カリキュラム・ツリー作成の概要

カリキュラム・マップ/カリキュラム・ツリーの例

カリキュラム・ツリー



上智大学 文学部国文学科カリキュラム・ツリー

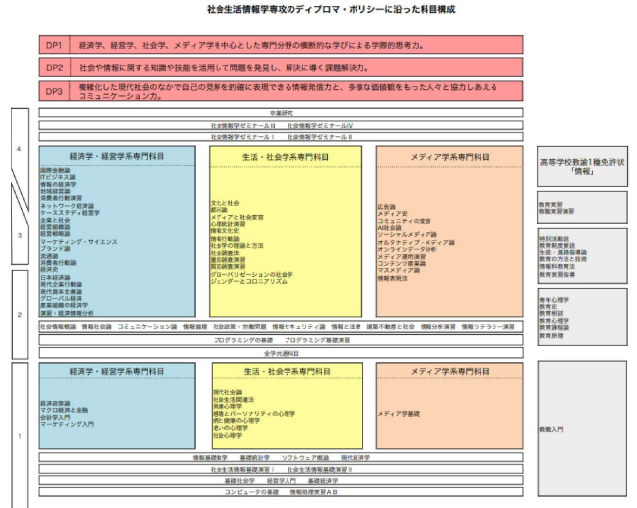
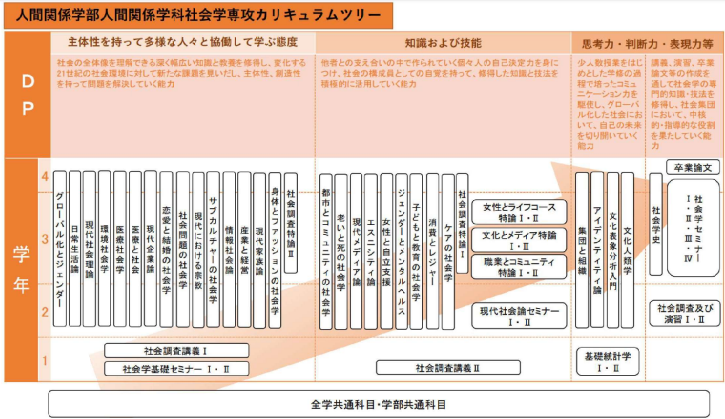


南山大学 外国語学部英米学科カリキュラム・ツリー

カリキュラム・マップ/カリキュラム・ツリー作成の概要

カリキュラム・マップ/カリキュラム・ツリーの例

カリキュラム・ツリー



大妻女子大学 人間関係学部と社会学部のカリキュラム・マップの違い

カリキュラム・マップ/カリキュラム・ツリー作成の概要

カリキュラム・マップ/カリキュラム・ツリー作成の手順

カリキュラム・マップ

現行カリキュラムの策定途上で、カリキュラム編成委員会（教育推進課）において、DPと各科目の対応について表化済（少なくとも情報としては存在する）

→表のアレンジで比較的早期に作成が可能（事務局作成→学部確認で構わないのでは）

⇒ただし一つの科目にDPの複数の項目にチェックが入っている→チェックの優先順位を検討する必要

カリキュラム・ツリー

現行カリキュラムについて、カリキュラム・マップを参考にしながら、各科目の関係を位置づけるカリキュラム全体の構成がイメージできるよう図化 デザインは自由

⇒何を重視して図化するかは、学科の学びのコンセプトや学びの順序をどう見せるか

カリキュラム・マップ/カリキュラム・ツリー作成の手順

カリキュラム・マップ/カリキュラム・ツリーともに

3ポリシー（AP、DP、CP）および開講科目は現行のものを基本とし、ひとまずさわらない
 将来のカリキュラム改革の基礎となるが、現行カリキュラムの改定ありきの作業ではないことに注意
 →今回のマップ作成のねらいから逸脱する

カリキュラム・マップ

全ての開講科目とDPとの関係を確認・検討する

現在、教育推進課で作成済のカリキュラムマップでは、一つの科目にDPの複数の項目にチェックが入っている

→各科目で最も関係するDPは何か、優先順位を検討

⇒全ての科目でDPいずれかの項目と対応することの確認

*DPの項目のうち、対応する科目が著しく少ないor無い科目があった場合…

カリキュラム・マップ/カリキュラム・ツリー作成の手順と検討事項

カリキュラム・マップ/カリキュラム・ツリー作成の手順

カリキュラム・マップ

全学教養科目（2019年度以降第1学年次入学者適用カリキュラム）

区分	科目名	科目コード	単位数	1	2	3	4
人間を育める 心の世界を考える	くらしの中の仏教	B02000	1	○	○	○	○
	ことばと文学	B02010	1	○		○	○
		B02020	1	○		○	



5. カリキュラムマップ サンプル

系列	科目名	セメスター	単位	DP1	DP	DP	DP	DP5
				知識・技能	思考・判断・表現	主体性・多様性・協調性		
専攻専修	科目A	1	2	●		○	○	
	科目B	1	2		●	○	△	
	科目C	2	2	○	●			
学修基礎	科目D	1	2			●	○	△
	科目E	1	2			○	●	△
	科目F	3	2	○			●	○
学修専攻	科目G	3	2		●	○	△	
	科目H	3	2			●	○	
	科目I	3	2			●	○	
関連科目	科目J	5	2				●	○
	科目K	7	2				●	○
	科目L	1	2	○	△			
	科目M	3	2				△	
	科目N	3	2		○			△
	科目O	3	2			△	○	

●：達成するために特に重要な到達目標□DPと強く関連）

○：達成のために重要な到達目標□DPと関連）

△：達成のために望ましい到達目標□DPとやや関連）

カリキュラム・マップ/カリキュラム・ツリー作成の手順と検討事項

カリキュラム・マップ/カリキュラム・ツリー作成の手順

カリキュラム・ツリー

現在の開講科目をAP～DPへの接続のプロセスのなかに位置づける（カリキュラムマップを参考に）

科目のグルーピング（科目群や領域）、科目の履修順序（初歩と応用）

標準的な履修の系統全て（免許・資格の取得者と非取得者）について、科目の系統を示す

（い）学科が想定する基本的な学修

（ろ）学生が選択しうる学びのコース

（は）科目名称の特性

（に）免許・資格関連の科目で、管轄官庁や統括機関などによって科目表などが示されている場合（卒業要件と関係がある場合）

→免許や資格があくまでもオプションの位置づけであるならば、免許や資格の取得を目指す学生と、免許や資格を取得しない学生の学びの結果は同一のDPにつながっていること、同じレベルであることを示す必要がある

⇒学科として一つの学位プログラム

カリキュラム・マップ/カリキュラム・ツリー作成の手順と検討事項

カリキュラム・マップ/カリキュラム・ツリー作成の手順

カリキュラム・ツリー 歴史学部の場合

作成の背景

・歴史学科と歴史文化学科の違いをどう説明するか

→入学後した学生の実際の学びとイメージしていた学びとの違い…学習のモチベーション低下、学業不振
オープンキャンパスや教育懇談会などにおける説明の「曖昧さ」（担当者によって異なる可能性）

・それぞれの学科の学びをわかりやすく示すにはどうしたらよいか

→身に着けるべき資質（≡各学年でのミニマムスタンダードとしての到達度）を示す

*最終（卒業時）到達目標はDPにつながるが、各学年ではどうか

⇒学年別到達目標（学科）の作成

・学科を構成する各領域で、学年別到達目標（学科）を具体化するとどうなるか

→領域間同士のバランス（到達度、難易度）

カリキュラム・マップ/カリキュラム・ツリー作成の手順と検討事項

◆第2回佛教大学教育開発研究会 教職課程カリキュラムツリーの作成ワークショップ

実施方法：対面・オンライン同時開催

日時：2023年2月22日（水）15：30～17：00

講師：貝 英幸（歴史学部歴史学科 教授）

【内 容】

今回のワークショップの目的は以下の3点。

- ①本学の教職課程における科目の順次性、体系性を確認し、学生に効果的な学びの道筋（履修順序）を説明できるようになる。
- ②教職課程における到達目標（養成する教師像）を説明することができる。
- ③正課、正課外の支援体制を含め、佛教大学の教職課程の特徴が説明できる。

近年、うたわれている大学の教学マネジメントについて、教職課程の運営にも同様に求められており、教職課程認定時の水準維持、向上に努めているか確認するため、認定後も教職課程認定大学等実地視察が行なわれている。本学でも改めて、本学における「教職課程のDP」の検討と設定について考える機会とする。

ワーク① 教職課程履修プロセスの確認と検討

校種ごとにグループにわかれ、現在使用している教職課程の履修モデルについて、科目の内容等も確認しながら、より理想的な履修順序を検討する。

ワーク② 「教職課程のDP」の検討と設定

本学で設定している教師像「深いこども理解」「高い指導力」「豊かな関係性」について、免許種別ごとに具体的に設定する。また、設定された教師像になるために、どのような資質や能力・技能を身に着けたらいいかという到達目標を作成し、教職課程DPへつなげていく。

上記のワークショップの後、グループごとに話し合いの結果を発表し、内容の検討を続けていくことを確認した。



教職課程カリキュラムツリー作成WS
本学の教職課程が解決すべき課題を考える

説明者:歴史学科 貝 英幸

研修のはじめに

大学（学部）教育についての基本事項
教職課程についての基本事項

研修のはじめに

大学教育についての基本事項

教職課程についての基本事項

「2040年に向けた高等教育のグランドデザイン」(中教審第211号/H301126)

→「高等教育改革の実現すべき方向性」の提示

「教学マネジメント指針」(中教審大学分科会/R020122)

→「学修者本位の教育の実現」について具体的な方向性、取り組みの提示
同「指針」

大学全体としての三つの方針や教育理念に基づき実施される全学共通教育等は、学位プログラムの学修目標を達成する上で適切に活用されることが求められる。こうした検討の過程で作成された「カリキュラムマップ」「カリキュラムツリー」等は、学生の主体的な学修を促す観点からも、それぞれの資料が何を意味するものであるのか説明を付記したり、履修指導において活用するなど、学生に分かりやすい形で提示されることが求められる。(「指針」p.17) ⇒各大学に求められている具体的な取り組み事項

(1)学部・学科・専攻(領域)のカリキュラムや教育内容が、AP~CP~DPという3つのポリシーと整合性のある形で接続され、それらポリシーに基づいたカリキュラムが編成できていることの確認

(2)カリキュラム編成の意図や編成上の工夫をふまえて、カリキュラムの全貌、カリキュラムを構成する諸科目の系統を学生(社会)にわかりやすく伝えること

研修のはじめに

大学教育についての基本事項

教職課程についての基本事項

- 大学の運営(教職課程を含む)は、2004年(H16)度に7年以内ごとの認証評価が法律で義務付けられたことにより、評価の結果に基づいた改善が求められるように。

→文部科学省の方針、併せて大学基準協会による自己点検評価の審査結果に盛り込まれた大学運営についての指摘、文科や基準協会の教育のあり方についての方向性をふまえる必要が生じている

○今年度大学全体の質保証の取り組みとして行われた「カリキュラムマップ」の作成と公表、「カリキュラムツリー」の作成もこうした状況をふまえた取り組み

=大学運営が「許認可事業」である以上、大学はこれらの方針や具体的な取り組みへの対応は不可避。欲をいえば中教審答申などを精査し、今後求められることを先読みした体制、取り組みの実施も必要

⇒こうした事情は教職課程においても同様

研修のはじめに

大学（学部）教育についての基本事項

教職課程についての基本事項

- 教職課程：教育職員免許法、同法施行規則によって法的に定義、規定
実際には→大学設置基準のもと教職課程認定基準が設定

◎教職課程の認定（文部科学大臣からの諮問に基づいて課程認定委員会にて審議/教員の免許状授与の所要資格を得させるための大学の課程の認定に関する審査）

→審査に合格した大学については、文部科学省が「教員免許状を取得できる大学一覧」として公開

ただし、教育職員免許法や同法施行規則は逐次改訂され、教職課程の内容は断続的に変更される

例) 小学校の外国語(英語)教育、ICTを用いた指導法、特別支援教育の充実、アクティブラーニングの視点に立った授業改善など

※「「令和の日本型学校教育」の構築を目指して～全ての子供たちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学びの実現～(答申)」で示された新たな方針(中教審第228号/R30126)

○教職課程認定時の水準維持、向上に努めていることの確認

→教職課程認定大学などに対する実地視察の実施

(その年度に実施した「教職課程認定大学等実地視察報告書」が公開

*本学の前回視察は2014/H26)

⇒法令(省令)などに沿ってカリキュラムなど課程の基本的な枠組み、カリキュラムの運用などを含んだ運営組織・運営体制を構築したとしても、方針に沿って適宜改める必要がある

今、教職課程において求められているのは

教職課程諸科目が「教職課程のDP」へどう接続するのかを示す

- ・本学の教職課程についての姿勢や考え方の提示
- ・学生の教職課程履修のガイドライン

具体的検討事項

- 1:本学における「教職課程のDP」の検討と設定
- 2:本学における教職課程履修プロセスの確認と検討
- 3:教職課程の履修を大学としてどう管理しながら、質をどのように保証するのか、大学が用意する教職課程の仕組みの構築

1: 本学における「教職課程のDP」の検討と設定

- 本学が定める「佛教大学で育つ教師像（以下教師像）」は「教職課程のDP」としてふさわしいか
 - ※教職課程のDP→「各大学が教職課程を履修することによりどのような教師を育てるのか」という「目指すべき教師像」の設定と公表の必要性」「教員養成部会（第98回）議事録」（H290703）
- 学科DPと「教職課程のDP」との関係をふまえたうえでの「教職課程のDP」諸事項の具体化（構造化）
- 「教職課程のDP」をもとにした、教職課程全般にわたる指導方針（3と関連）

2: 本学における教職課程履修プロセスの確認と検討

- 課程履修の開始から免許取得までの期間を、履修者の「標準的な伸びしろ」を考慮し、「教職課程のDP」へ接続するいくつかの段階として示し、その段階に到達するための手立てとして明示
 - ※教職課程の諸科目：「教育職員免許法及び同法施行規則が示す教職課程の科目」は、H31実施の教職課程より科目区分が変更（所謂「新教免法」）
- （法定の）科目区分と本学が設定する教職科目の整合性
- 教職課程の諸科目の履修と「教職課程のDP」として示す諸事項との関係
- 教職科目のうち学部・学科専門科目と重複する科目の位置づけ
- 教職課程の諸科目の履修の順序＝履修プロセス（学習のプロセス）の確認・検討

3:教職課程の履修を大学としてどう管理しながら、質をどのように保証するのか、大学が用意する教職課程の仕組みの構築

- 本学が用意する「免許・資格におけた支援体制」は、上記1、2の諸事項を組織・機関として保証・バックアップできる体制にあるか

※教職課程の質保証を専門的に担う組織の設置とその運用→文部科学省としては現時点では正式には求めているが、実地視察の段階で要請「教員養成部会(第133回)議事録20221125」

- 教職支援センターの役割と教学管理セクションの役割との関係
- 教職支援センターの諸業務と「教職課程のDP」との関係

諸事項の検討を通じて、本学の教職課程における「質の保証」を明確化したうえで公表することができ、同時に文部科学省が求める「教職課程を設置する大学が独自に、科目区分に対応する科目、教職課程の全体像を示す必要」が高いレベルで満たせる

→教職課程における「質の保証」とそのための体制づくり

※このタスクは、教育推進機構・教職支援センターが担う

具体的課題の検討作業（ワーク）

ワークその1 教職課程履修プロセスの確認と検討

(法定の)科目区分と、本学が開講する教職課程諸科目の対応関係の確認と履修順序
 法定(「教育職員免許法施行規則」66条の6)の科目区分について、履修の優先順位を明確にする

区分	法定基準 免許法に定める事項	授業科目 本学
教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目		
教職の意義等に関する科目	教職の意義及び教員の役割	別表○ 学校教育職入門
	教員の職務内容(研修、服務及び身分保障等を含む。)	
	進路選択に資する各種の機会を提供等	
	教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想	教育原論
教育の基礎理論に関する科目	幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程(障害のある幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程を含む。)	教育心理学2 発達心理学
	教育に関する社会的、制度的又は経営的事項	教育行政学 教育社会学2 教育社会学2 比較教育学
	教育課程の意義及び編成の方法	学校教育課程論(中・高)
	各教科の指導法	中等教職教育法社会1 中等教職教育法社会2 中等教職教育法社会3 中等教職教育法社会4
教育課程及び指導法に関する科目	道徳の指導法	道徳の理論及び指導法(中)
	特別活動の指導法	特別活動の指導法(中・高)
	教育の方法及び技術(情報機器及び教材の活用を含む。)	教育方法学(中・高) 教育方法学2(中・高)
	生徒指導、教育相談及び進路指導等に関する科目	教育評価論(中・高) ICTの活用及び教育(中・高) 生徒指導・進路指導の理論及び方法(中・高)
教育実習	教育実習(中・高)1 教育実習(中・高)2 教育実習(中・高)3 教育実習指導(中・高) 教職実践演習(教職)	
教職実践演習		
日本史及び外国史	日本史 外国史 アジア史	

大区分(小・中・高)

- 1:[教科及び教科の指導法に関する科目]
- 2:[教育の基礎的理解に関する科目]
- 3:[道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目]
- 4:[教育実践に関する科目]
- 5:[大学が独自に設定する科目]
- 6:[教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目]
 -教育学科以外は、大区分のうち、1の教科の指導、および2~6の区分は、「自由科目」として履修する

検討その1 「教育職員免許法施行規則」66条の6に定める科目区分について

教育学科 中学校教諭一種免許状「社会」

幼稚園 中学校 社会 数学
小学校 高等学校 数学

2018年度第1学年次入学者適用

区分	法 定 基 準 免許法に定める事項	本 学 基 準 授 業 科 目	単 位	必 修・ 選 択 別	履 修 単 位 セキス	最 低 修 得 単 位	備 考
教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目		別表①				8	P.11参照
教 職 関 係 的 区 分	教職の意義等に関する科目	・教職の意義及び教員の役割 ・教員の職務内容（研修、服務及び身分保障等を含む。）	学校教育入門	2	必	2	2
	教育の基礎理論に関する科目	・進路選択に資する各種の機会の提供等 ・教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想 ・幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程（障害のある幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程を含む。） ・教育に関する社会的、制度的又は経営的事項	教育原論	2	必	1	8
			教育原論2	2	選	2	
			教育心理学	2	必	2	
			教育心理学2	2	選	2	
			発達心理学	2	選	3	
			教育行政学	2	必	2	
			教育行政学2	2	選	2	
			教育社会学2	2	必	2	
			比較教育学	2	選	3	
			教育法規	2	選	3	
	教育課程及び指導法に関する科目	・教育課程の意義及び編成の方法 ・各教科の指導法	学校教育課程論（中・高） 中等教科教育法社会1 中等教科教育法社会2 中等教科教育法社会3 中等教科教育法社会4	2 2 2 2 2	必 必 必 選 選	1 3 4 4 3	12
	指導法に関する科目	・道徳の指導法 ・特別活動の指導法 ・教育の方法及び技術（情報機器及び教材の活用を含む。）	道徳の理論及び指導法（中）	2	必	3	
			特別活動の指導法（中・高）	2	必	3	
教育方法学（中・高）			2	必	3		
教育方法学2（中・高）			2	選	4		
生徒指導、教育相談及び進路指導等に関する科目	・生徒指導の理論及び方法 ・進路指導の理論及び方法 ・教育相談（カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。）の理論及び方法	生徒指導 進路指導の理論及び方法（中・高） 教育相談の理論及び方法（中・高）	2 2	必 必	3 3	4	
教育実習		教育実習（中・高）1 教育実習（中・高）2 教育実習（中・高）3 教育実習指導（中・高）	4 2 2 1	選 選 選 必	6 6 6 5	5	教育実習の科目登録についてはP.108を参照のこと
教職実践演習		教職実践演習（教諭）	2	必	8	2	
日本史及び外国史		日本史 外国史 アジア史 西洋史 教育史 東北アジア史	2 2 2 2 2 2	必 必 選 選 選 選	1 1 1 1 1 1	22	

中区分（幼・小・中・高）
大区分2:[教育の基礎的理解に関する科目]の区分

- A:[教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想]
- B:[教職の意義及び教員の役割・職務内容（チーム学校運営への対応を含む。）]
- C:[教育に関する社会的、制度的又は経営的事項（学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む。）]
- D:[幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程]
- E:[特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する理解]
- F:[教育課程の意義及び編成の方法（カリキュラム・マネジメントを含む。）]

教育学科 中学校教諭一種免許状「社会」

幼稚園 中学校 社会 数学
小学校 高等学校 数学

2018年度第1学年次入学者適用

区分	法 定 基 準 免許法に定める事項	本 学 基 準 授 業 科 目	単 位	必 修・ 選 択 別	履 修 単 位 セキス	最 低 修 得 単 位	備 考
教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目		別表①				8	P.11参照
教 職 関 係 的 区 分	教職の意義等に関する科目	・教職の意義及び教員の役割 ・教員の職務内容（研修、服務及び身分保障等を含む。）	学校教育入門	2	必	2	2
	教育の基礎理論に関する科目	・進路選択に資する各種の機会の提供等 ・教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想 ・幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程（障害のある幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程を含む。） ・教育に関する社会的、制度的又は経営的事項	教育原論	2	必	1	8
			教育原論2	2	選	2	
			教育心理学	2	必	2	
			教育心理学2	2	選	2	
			発達心理学	2	選	3	
			教育行政学	2	必	2	
			教育行政学2	2	選	2	
			教育社会学2	2	必	2	
			比較教育学	2	選	3	
			教育法規	2	選	3	
	教育課程及び指導法に関する科目	・教育課程の意義及び編成の方法 ・各教科の指導法	学校教育課程論（中・高） 中等教科教育法社会1 中等教科教育法社会2 中等教科教育法社会3 中等教科教育法社会4	2 2 2 2 2	必 必 必 選 選	1 3 4 4 3	12
	指導法に関する科目	・道徳の指導法 ・特別活動の指導法 ・教育の方法及び技術（情報機器及び教材の活用を含む。）	道徳の理論及び指導法（中）	2	必	3	
			特別活動の指導法（中・高）	2	必	3	
教育方法学（中・高）			2	必	3		
教育方法学2（中・高）			2	選	4		
生徒指導、教育相談及び進路指導等に関する科目	・生徒指導の理論及び方法 ・進路指導の理論及び方法 ・教育相談（カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。）の理論及び方法	生徒指導 進路指導の理論及び方法（中・高） 教育相談の理論及び方法（中・高）	2 2	必 必	3 3	4	
教育実習		教育実習（中・高）1 教育実習（中・高）2 教育実習（中・高）3 教育実習指導（中・高）	4 2 2 1	選 選 選 必	6 6 6 5	5	教育実習の科目登録についてはP.108を参照のこと
教職実践演習		教職実践演習（教諭）	2	必	8	2	
日本史及び外国史		日本史 外国史 アジア史 西洋史 教育史 東北アジア史	2 2 2 2 2 2	必 必 選 選 選 選	1 1 1 1 1 1	22	

『STUDY GUIDE』に示された履修開始セメスターは「教職課程」の履修を優先して考えられたものではないが、学生に対するメッセージ性は強い

- ・授業科目の優先順位
- *厳密な優先順位ではなく、必修と選択必修の別、学年ごと、課程前半と後半、履修する区分間の関係などをもとに、緩やかな履修順序（科目群）が示せるとよい

ワークその2 「教職課程のDP」の検討と設定

- 「教職課程のDP」諸事項の具体化（構造化）
- 学科DPと「教職課程のDP」との関係
- 「教職課程のDP」をもとにした、教職課程全般にわたる指導方針（具体的検討事項の3にも関連）

佛教大学で育つ教師像

• 深い子ども理解

幅広い教養と豊かな人間性を有し、子どもの内面を深く理解してその成長に寄り添い、自立を支援することのできる教員。

• 高い指導力

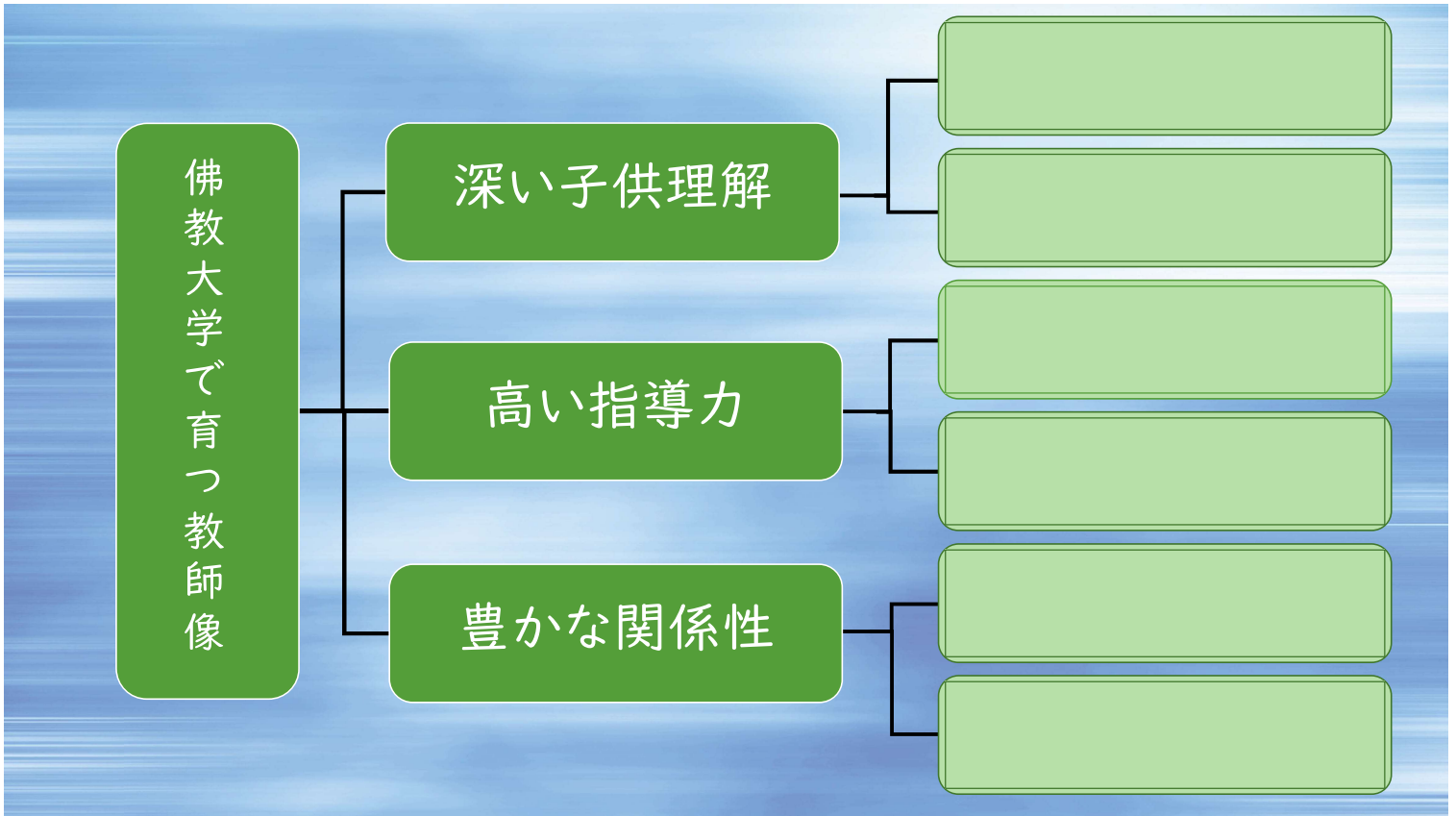
教職及び教科・領域に関する理論知と実践知を修得し、教育現場において高い指導力（創造と問題解決）を発揮できる教員。

• 豊かな関係性

教職員や保護者、地域社会との豊かな関係性の中で、協働して教育活動に取り組むことのできる教員。

例) 「深い子ども理解」は、幼稚園教諭と高校教諭で重視するポイントは違うのでは？

免許毎に具体的に説明する必要



免許種別ごとの「教職課程DP」

	教職ポリシー	具体的事項	到達目標（身に着けるべき資質や能力・技能）
佛敎大学で育つ教師像	深いこども理解		前半
			後半
			前半
			後半
	高い指導力		前半
			後半
			前半
			後半
	豊かな関係性		前半
			後半
			前半
			後半

検討その2

「教職DP」と履修プロセスの関係を言語化する

- 教職課程の履修について

どのような順序で履修(学習)することが望ましいか

学年別(あるいは履修の前半、後半)でどのような資質を養ってほしいか

例えば、履修する学生へのメッセージとして

「〇〇免許の履修においては

(△A△や△B△を理解し、▲C▲ ▲D ▲を習得することが最も重要です。)

4年間を通じた履修では、前半(1、2年生次)では、■ ■の資質を身に着けることを重視し、それを基礎に後半(3、4年次)では◇◇の習得を目指してください

*重視される資質については「教職DP」との関連を意識する

2022 年度その他活動

FD 関連研修会 参加報告書

主催	ビズアップ総研
企画名称・テーマ	21世紀型「学習成果アセスメント」と「グローバル・コンピテンシー」～世界最先端の高等教育質保証の潮流を読み解く～
開催日・会場	2022年8月10日(水) Zoom
参加者所属	保健医療技術学部 看護学科

参 加 報 告

【研修会の趣旨】

「2040年に向けた高等教育のグランドデザイン(答申)」や産業界による「Society5.0」に向けた次世代型教育モデルに対応できる分離融合、グローバル・コンピテンシーを習得させるようなカリキュラム、教授法、新たな社会人への教育を見据えてどのような学習成果を到達させるのか、ということを検討するための評価アセスメントに関する研修。

【研修会の概要】

1. 学習成果の現状と課題～学習成果を巡る国際動向と比較～
2. 学習成果の可視化の方法～直接評価と間接評価の組み合わせ～
3. コロナ禍前・後のグローバル・コンピテンシーの習得状況～日米韓台4か国大学生調査をベースに～
4. 学習成果・コンピテンシーに関する高等教育研究の到達点～間接評価の可能性と限界～

【研修会の内容で特に印象に残ったことや、今後に活かせると思われたことについて】

近年、ICTの活用、コロナ禍による教育方法の変化で評価方法も変更を余儀なくされている。そのため、学習成果測定研究に関心があり、学習成果アセスメントということに興味を持って受講することにしたが、個々の科目の評価ではなく、大学教育全体の評価に関する内容であったことから少し関心事とずれてしまっていたことと、講師の研究領域の周知のこととして説明されていたので理解が追いつかない部分が多かった。

しかし直接評価、間接評価で評価していくことの重要性は理解しているので、興味深かった。教育現場ではどうしても直接評価の方がはっきり成果を可視化できるので偏りがちだが、間接評価(卒業生調査、学生の行動や価値観のアセスメント)の視点を持つ必要性を再認識できたが、その難しさも同時に感じた。

また、技術教育を行っていると目の前の技術や知識の到達に追われ、グローバルな教育、グローバル・コンピテンシー(GC)を育むという視点を見失いがちであるため、教育全体の教育効果を検証している講師の研究成果は興味深かった。日々感じている学生の幼さ、生活経験の少なさからくる学習困難と、世界レベルでの人材育成の視点があまりも乖離しており、このギャップを埋めることも日本の教育の課題である。

さらにコロナ前・後の4か国の比較は興味深く、結果は想定範囲の内容であるが、日本の現状分析の中に元々グローバルな視点が身につけにくい学習環境にあること、諸外国に比べその意識も低いことなどがあり、現状と一致するため、日本全体の課題を感じるとともに、自分が関係する学問領域でどのように教育していくかの課題を考えることとなった。特にコロナ禍で人の交流が限られる一方で、オンラインで世界と繋がるのが容易になった。このメリット、デメリットを踏まえて各学問分野でグローバル社会に対応する人材育成がより求められている現状をこのFD研修で実感することができた。

2022年度

FD関連研修会 活動報告書

発行日：2023年10月5日

発行者：佛教大学教育推進部教育推進課

〒603-8301 京都市北区紫野北花ノ坊町 96

TEL (075) 491-2141 (代)

URL <http://www.bukkyo-u.ac.jp/>



BUKKYO UNIVERSITY